

資料 1 - 1

令和4年度中に収集した感染症による野生鳥獣の大量死情報等

令和3年度野生鳥獣に関する感染症対策としての鳥獣保護管理方針検討会で検討した生物多様性保全の観点から対策を優先すべき感染症の候補（30疾病。以下、「対策を優先すべき感染症の候補」という。）の更新につながる情報の有無を確認した。

具体的には、インターネット等を活用して、令和4年度中（令和4年3月1日から令和5年1月31日まで）に発表のあった感染症のうち、3月1日以降に確認された野生鳥獣の大量死等の情報を収集した。具体的には、表1の主な情報源等から、国内に生息する野生鳥獣や希少種¹及びその近縁種の大量死等の発生情報の確認作業を行った（表2）。

特に高病原性鳥インフルエンザによる鳥類の大量死の報告が多く、国内においても出水市のツル類で大量死が発生した（2023年2月22日時点で計1,445羽を保護・回収。うち、ナベヅル150羽、マナヅル28羽で陽性を確認）。海外では高病原性鳥インフルエンザによる食肉目の感染や鰭脚類の大量死も確認された。

希少種に関しては、2022年7月、ツシマヤマネコの野生個体で初めて、重症熱性血小板減少症候群（以下、「SFTS」という。）の抗体が確認された（環境省九州地方環境事務所報道発表²）。この情報を踏まえて、令和3年度に対策を優先すべき感染症の候補の抽出のために行ったリスク評価の基準に則り、SFTSの発生可能性を「高い」から「極めて高い」に更新し、別添のとおり、対策を優先すべき感染症の候補と影響を受ける野生鳥獣の一覧を更新した。

表1 主な情報源

<関係省庁及び機関、国際機関のウェブページ>

- ・ 監視伝染病の発生状況（農林水産省）
https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/kansi_densen/kansi_densen.html
- ・ 感染症発生動向調査（国立研究開発法人国立感染症研究所）
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>
- ・ World Animal Health Information System（国際獣疫事務局（WOAH））
<https://wahis.oie.int/#/home>

<文献・科学誌等>

- ・ Journal of Veterinary Medical Science（獣医学会誌）<http://jsvetsci.jp/jvms/>
- ・ 日本獣医師会雑誌 <http://nichiju.lin.gr.jp/mag/index.html>
- ・ 日本野生動物医学会誌 <https://www.jjzwm.com/journal/>
- ・ Journal of Wildlife Diseases <http://www.jwildlifedis.org/?code=wdas-site>
- ・ The Journal of Infectious Diseases <https://academic.oup.com/jid>
- ・ Emerging Infectious Diseases <https://wwwnc.cdc.gov/eid/>

<その他：学会メーリングリスト等>

- ・ ProMed mail（国際感染症学会（International Society for Infectious Diseases））
<https://promedmail.org/>

¹ 希少種は国内希少動植物種を含む環境省レッドリスト掲載種（哺乳類、鳥類）のうち、CR種、EN種、VU種を対象とする。

² https://kyushu.env.go.jp/press_00003.html

表2 海外における大量死事例（令和4年3月以降に発生・報告があったもの）

（注）報道記事から収集した情報も含まれる（WOAH への公式報告未確認）

種	国	発生時期	報告（死亡） 羽数	備考	参照
高病原性鳥インフルエンザ（鳥類）					
ハイロペリカン	ギリシャ	2022年2～3月	828	H5N1亜型ウイルス	promed
ハイロガン	スペイン	2022年3月	120	H5N1亜型ウイルス	
キノドハナグロウ	南アフリカ	2022年5～7月	2,686	H5N1亜型ウイルス	
サンドイッチアジサシ	オランダ	2022年5～6月	9,600		文献
オオズグロカモメ	ロシア	2022年5～6月	5,157	H5N1亜型ウイルス	
オニアジサシ	ロシア	2022年5～6月	3,840	H5N1亜型ウイルス	
カスピセグロカモメ	ロシア	2022年5月	124	H5N1亜型ウイルス	
チャガシラカモメ	中国	2022年7月	234	H5N1亜型ウイルス	WOAH
アジサシ等	イギリス	2022年7月	3000		promed
ペルーペリカン	ペルー	2022年11月	200	H5亜型ウイルス	WOAH
ペルーペリカン	ベネズエラ	2022年11月	172	H5亜型ウイルス	WOAH
ハクガン	米国コロラド州	2022年11～1月	1,600	亜型不明	報道
ハクガン	米国ワシントン州	2022年11～12月	700	H5N1亜型ウイルス	
カッシュクペリカン	ホンジュラス	2023年1月	192	H5N1亜型ウイルス	promed
ペリカン、ペンギン、 海鳥類	ペルー	2023年2月	55,000	H5N1亜型ウイルス	報道
高病原性鳥インフルエンザ（哺乳類）					
オタリア、ミナミアメリカオットセイ	ペルー	2023年1～2月	634	H5N1亜型ウイルス	報道
パズツレラ症（出血性敗血症、家きんコレラを含む）					
ハクガン	米国アイダホ州	2022年11月	350	家きんコレラの疑い	promed
アスペルギルス症					
ガン類	米国ミネソタ州	2022年11月	100以上		

(別添)

対策を優先すべき感染症の候補（30 疾病）と影響を受ける野生鳥獣

疾病名	特に影響の懸念される野生鳥獣（※）		発生した場合の影響	発生の可能性		備考
	区分	鳥獣種		常在／未定着／未発生	可能性	
高病原性鳥インフルエンザ	希少種	ツル類、 ヤンバルクイナ	個体死	未定着	極めて高い	
重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	希少種	ツシマヤマネコ、 イリオモテヤマネコ	個体死	未定着	極めて高い	発生時に、イノシシ、シカの個体群管理が必要となる可能性
疥癬（キュウセンヒゼンダニ、 ヒゼンダニによるもの）	希少種	アマミノクロウサギ、イ リオモテヤマネコ、ツシ マヤマネコ、シベリアイ タチ	個体死	常在	極めて高い	
ウエストナイル熱（流行性脳炎 の1つ）	希少種	猛禽類、 ヤンバルクイナ	個体死	未発生	高い	
アフリカ豚熱	その他の 野生鳥獣	イノシシ	集団死／大量死による 個体群の存続への影響	未発生	高い	発生時にイノシ シの個体群管理 が必要となる可 能性
トリコモナス症	希少種	アカガシラカラスバト、 オガサワラカラワヒワ等	個体死	常在	高い	
トキソプラズマ症	希少種	アマミノクロウサギ、ア マミトゲネズミ等のネズ ミ科	個体死	常在	高い	
鳥マイコプラズマ症（M. gallisepticum, M. synoviae）	希少種	ライチョウ、ウズラ	個体死	常在	高い	
ロイコチトゾーン症	希少種	ライチョウ	個体死	常在	高い	
ネコ白血病ウイルス感染症	希少種	ツシマヤマネコ、 イリオモテヤマネコ	個体死	常在	高い	
ネコ免疫不全ウイルス感染	希少種	ツシマヤマネコ、 イリオモテヤマネコ	個体死	常在	高い	
モルビリウイルス感染症（イヌ 科、ネコ科。イヌジステンパー を含む）	希少種	ツシマヤマネコ、 イリオモテヤマネコ、 シベリアイタチ	個体死	常在	高い	
パルボウイルス感染症	希少種	ツシマヤマネコ、 イリオモテヤマネコ、 シベリアイタチ	個体死	常在	高い	
ネコ伝染性腹膜炎	希少種	ツシマヤマネコ、 イリオモテヤマネコ	個体死	常在	高い	
ネコカリシウイルス感染症	希少種	ツシマヤマネコ、 イリオモテヤマネコ	個体死	常在	高い	

※その他の影響を受ける可能性のある国内野生鳥獣については、資料 1-2 を参照。

疾病名	特に影響の懸念される野生鳥獣（※）		発生した場合の影響	発生の可能性		備考
	区分	鳥獣種		常在／未定着／未発生	可能性	
ネコウイルス性鼻気管炎	希少種	ツシマヤマメコ、イリオモテヤマメコ	個体死	常在	高い	
狂犬病	希少種	哺乳類	個体死	未発生	ある	発生時にアライグマ、ハクビシンの防除強化が必要となる可能性
バスタツレラ症（出血性敗血症、家きんコレラを含む）	希少種	ガンカモ類、シギチドリ類	個体死	常在	ある	
ニューカッスル病（高病原性ニューカッスル病、低病原性ニューカッスル病）	希少種	ハト類	個体死	常在	ある	
サルモネラ菌感染症（サルモネラ症、家きんサルモネラ症、羊・山羊のサルモネラ症含む）	希少種	スズメ目の鳥類	個体死	常在	ある	
ニバウイルス感染症	希少種	イリオモテヤマメコ	個体死	未発生	ある	
野兎病	希少種	アマミノクロウサギ、げっ歯類	個体死	常在	ある	
マレック病	希少種	ガンカモ類	個体死	常在	ある	
あひるウイルス性腸炎	希少種	ガンカモ類	個体死	未発生	ある	
兎出血病	希少種	アマミノクロウサギ	個体死	未定着	ある	
兎粘液腫	希少種	アマミノクロウサギ	個体死	未発生	ある	
ベスト（エルシニア症。 <i>Yersinia pestis</i> ）	希少種	ツシマヤマメコ、イリオモテヤマメコ	個体死	未発生	ある	
マラリア	希少種	鳥類	個体死	常在	ある	
リステリア症（ <i>L. monocytogenes</i> ）	希少種	哺乳類、鳥類	個体死	常在	ある	
コクシジウム症	希少種	タンチョウ、マナヅル、ナベヅル、ヤンバルクイナ	個体死	常在	ある	

※その他の影響を受ける可能性のある国内野生鳥獣については、資料 1-2 を参照。